

タイ産業「4.0」 人材育て開発力

【バンコク＝岸本まりみ】製造業が集積し「東洋のデトロイト」の異名をとるタイ。そのタイで今、「KOSEN」を作る計画が着々と進んでいる。なぜ今、日本流の高専（高等専門学校）モデルが求められているのか。来年の開学に向け、準備に奔走する現場に向かった。

既存校衣替え 理論と実践両立

「東洋のデトロイト」停滞に危機感

高専に任せろ

第4部 アジアでもKOSEN ㊦

バンコク中心部から車に揺られること4時間。タイ東北部の中核都市、ナコンラチャシマ県のスラナリにあるテクニカル・カレッジの教室では、4月に入学したばかりの学生がぎこちない手つきで溶接機を扱っていた。



ものづくりの技術を学んだ生徒は産業界から引く手あまた（8月31日、タイ東北部の中核都市ナコンラチャシマのスラナリ・テクニカル・カレッジ）

「中進国の罠」に
パチパチと火花が飛び、周りで見ている学生が少し後まざりする。別の教室では金属片を使い、はんだ付けの練習中。

一筋の白煙とともにヤニの臭いが広がる。真剣なまなざしで見本通りに完成させたジラワット・チユンクラトック君（16）は自分の歩む道について「電機メーカーが発電所（電機メーカーが発電所）で技術者になること」と

「タイと日本では教え方が違うね」と話す。「タイでは理論が中心だけど、日本では理論を少しやっただ後すぐに実習。手を動かして学ぶんだね」と戸惑い気味だが、手を動かして学びを深めることが高専の神髄だ。

省だ。職業教育委員会事務局長は「タイの教育を向上させるために日本の高専モデルを取り入れた」と意気込む。

「とにかく基礎科目の強化から」。タイの高専立ち上げを率いる高専機構タイリエゾンオフィスの松本勉所長は強調する。既存のテクニカル・カレッジの教育課程を改革。1〜3年生までで数学や物理などの基礎を徹底的に学び、4〜5年生から専門分野に進む5年制の「タイに高専がやって来る」。産業界からは早くも期待の声が上がっている。ある大手電機メーカー幹部は「今は理論と実践を知る技術者が圧倒的に足りない」と嘆く。地場大手や自動車メーカーと技術者の奪い合いが激化するなか、「高専が